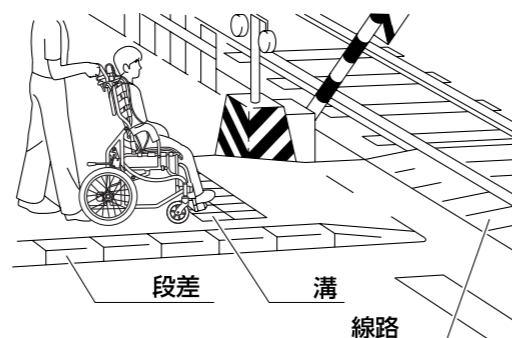


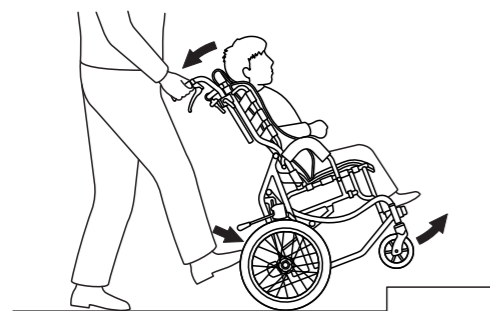
走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストの挟み込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



段の上がりかた

- 1 転倒防止バーを取り付けている場合は、転倒防止バーを左右とも取り外します。(8ページ「転倒防止バーの取り付け・取り外し」参照)。
- 2 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。



- 3 主輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

⚠ 警告	持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、フットサポート、手押しハンドルなどは持たないでください。
------	---

車いすに乗ったまま持ち上げる場合は2人以上で行ない、車いすの水平を保つように、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。

段の下りかた

- 手押しハンドルで車いすを支えながら、後ろ向きにゆっくり段を下ります。
- *無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
 - *段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元


株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号
TEL 052-694-0333 FAX 052-694-0800

NEXTROLLER

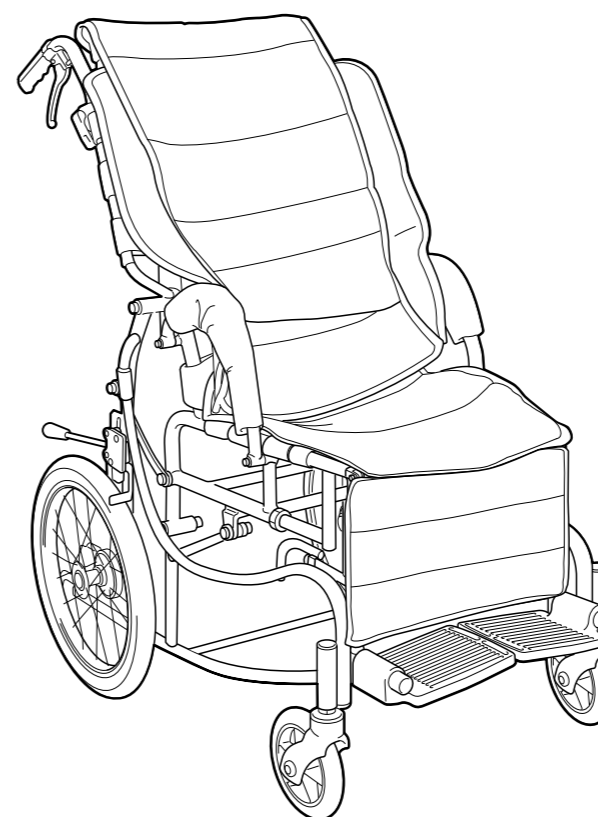
ネクストローラー 取扱説明書

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

目次

安全上のご注意	2
はじめにご確認ください	4
仕様	4
各部のなまえ	5
本製品について	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
バックサポート（背もたれ）の角度を変える（リクライニング機能）	8
転倒防止バーの取り付け・取り外し	8
各部の調節のしかた	9
フット・レッグサポートの前後位置調節	9
駐車用ブレーキの取付位置調節	9
フットサポートの高さ調節	10
フット・レッグサポートの上げ下げ（エレベーター機能）	10
バックサポートと座面の張り具合調節	10
手押しハンドルの高さ/向き調節	11
使用上のご注意	11
保守・点検	11
走行上のご注意	12
段の上がりかた	12
段の下りかた	12



ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
	禁止の行為であることを告げるものです。
	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

危険

- スピードを出さないでください。**
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

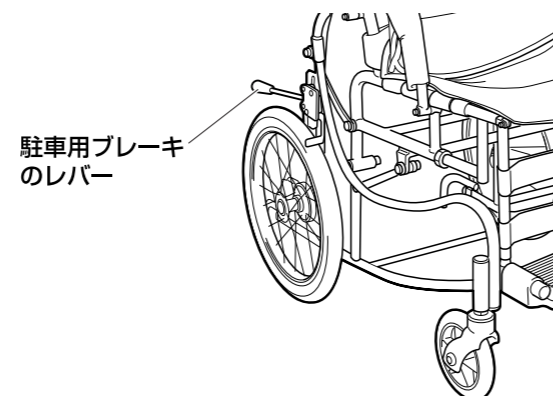


- 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキがある場合は、使用してください。**
- 通常は、必ず転倒防止装置が機能するように取り付けて使用してください。**
後方へ転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

警告

- 乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。**
主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。
- 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。**
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

- 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。**
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



警告

- 手押しハンドル、本体フレーム及びバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。**
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
- 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。**
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 制動用ブレーキ（オプション）は、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。**
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- アームサポートやフット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。**
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。
- 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。**
けがをする恐れがあります。
- 使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ず駐車用ブレーキをかけて主輪とフレームを持ってください。**
主輪とフレーム以外の部品を持つと、使用者の重みで部品が外れて使用者が転倒または落下し、事故やけがにつながる恐れがあります。
- タイヤの摩耗に注意してください。**
タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- 駐車用ブレーキ、制動用ブレーキ（オプション）は定期的に安全点検を行ってください。**
（期間の目安：1カ月に1度）
- 車いすのフレーム構造を変更するような改造はしないでください。**
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。また、故障の原因となります。

注意

- この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。**
- フレームに最大荷重が記載されている場合は、荷重制限（積載物も含む）を守って使用してください。**
- リクライニングおよびエレベーター操作時には、フレームの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。**
- フットサポートの下には足を入れないでください。**
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- 走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。**
- フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。**
けがをする恐れがあります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。**
走行の安全を損ない危険です。
- 使用する前に主輪、キャスト、駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。**
- 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。**
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 高さ調整式手押しハンドルは、クイックリリースのナットで固さを調整し、しっかり固定された状態を確認し使用してください。**
- フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。**

⚠️ 注意

❌ バックサポートを後ろに倒した状態で背面アウターシートには腰かけないでください。転倒によるけがや、車いすの破損の原因になります。

❌ バックサポートを後ろに倒した状態で、使用者の上半身を起こさないでください。車いすが前方に倒れ、事故やけがにつながる恐れがあります。

❌ 暖房器具にタイヤを近づけないでください。タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。



❗ 介助者が車いすを押すときは、必ずクイックリリースレバーがロックされていることを確認してから行ってください。事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。車いすの破損や故障の原因となります。

❗ 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。車いすの破損や故障の原因となります。

❌ シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

はじめにご確認ください

本製品購入後、はじめて梱包箱を開けるときの、下記のものすべてが入っていることを確認してください。

- ・車いす本体
- ・工具（スパナ：2本、5mmレンチ：1ヶ、4mmレンチ：1ヶ、3mmレンチ：1ヶ）
- ・取扱説明書（本書）
- ・保証書

仕様

(単位：mm)

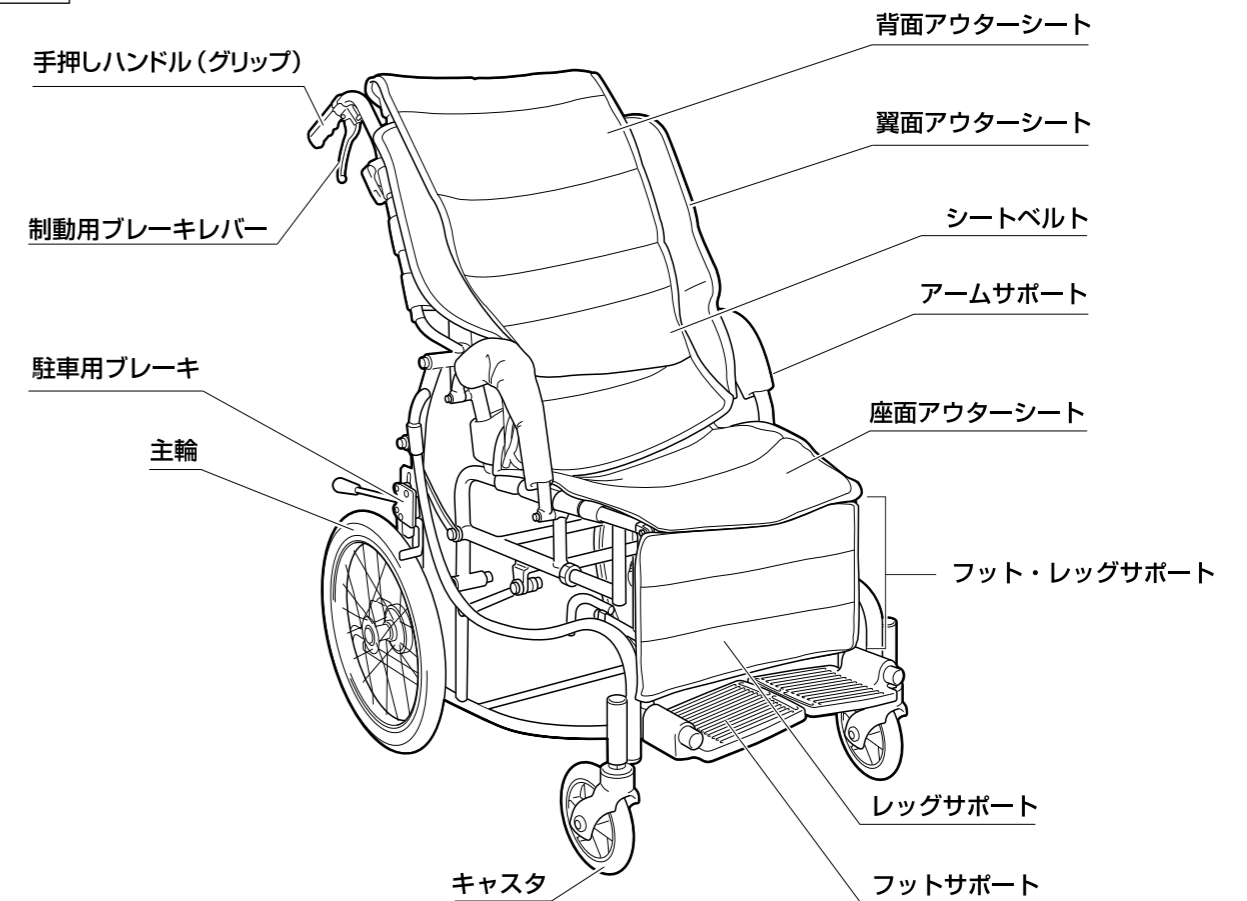
形式		NEXTROLLER (ネクストローラー)
材質	フレーム	アルミ軽合金
寸法	全幅	535 (シート幅380時)、575 (シート幅420時)
	全長	832~1100
	全高	1130
	シート幅	380・420
	座面高さ	525~675
	シート奥行	270・290・310・330・350
	主輪	16インチ
	キャスト車輪	6インチ
重量	17kg (シート幅380時)	

* 製品によっては、一部仕様が異なる場合があります。

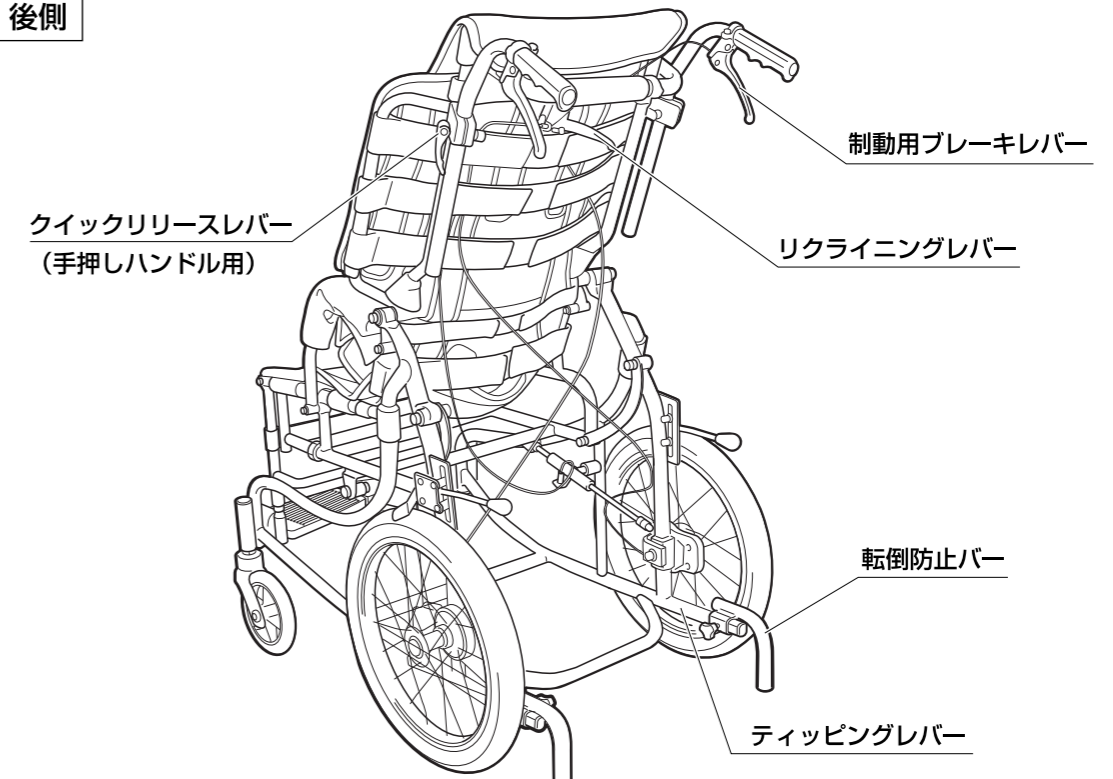
各部のなまえ

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。

前側



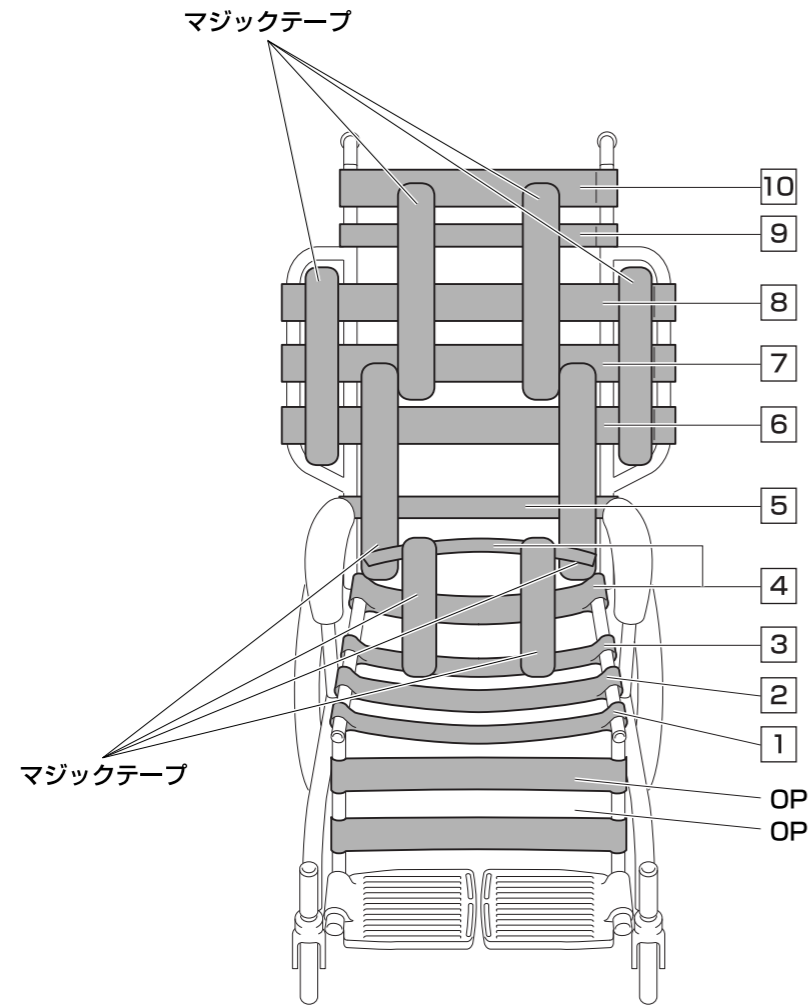
後側



※制動用ブレーキ、シートベルトはオプションです。

インナーベルトとマジックテープの標準的取付け位置

インナーベルトには番号タグが付いています。インナーベルトを取り外したときは、タグの番号を確認し、適切な位置に取り付け直してください。



エレベーターフットサポート（オプション）選択時は、インナーベルトOP（2本）をレッグサポート部に使用します。

本製品について

本製品は、標準機能の他に、必要に応じてお選びいただけるオプション機能を用意しております。オプション機能は本製品をご注文時にお選びいただけますので、お車ごとに装備内容が異なります。

本取扱説明書では、オプション機能についての記載内容に **オプション** マークを付けています。ご自分の車いすに装備されたオプション機能をご確認の上、必要な箇所をお読みください。

使いかた

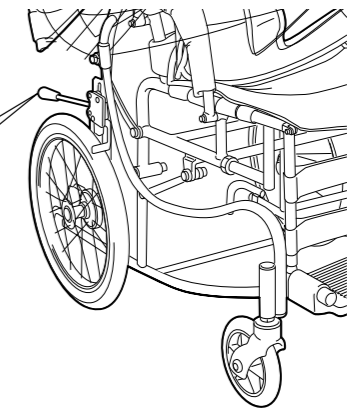
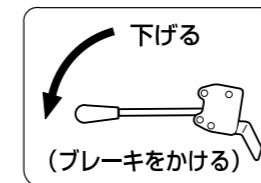
ブレーキのかけかた

⚠警告

- ・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを下に押し下げてかけます。
ブレーキレバーを上に戻すと解除されます。



● 制動用ブレーキのかけかた **オプション**

⚠危険

- ・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキがある場合は、使用してください。

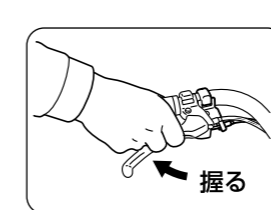
⚠警告

ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注意

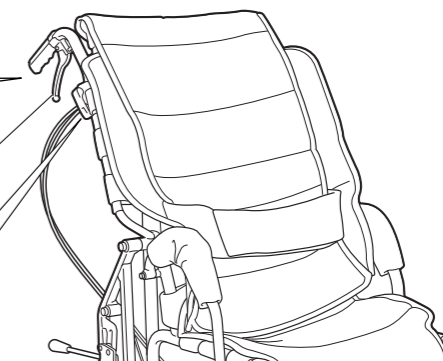
ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（期間の目安：1年に1度）

介助者が、左右の手押しハンドル下の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



制動用ブレーキレバー

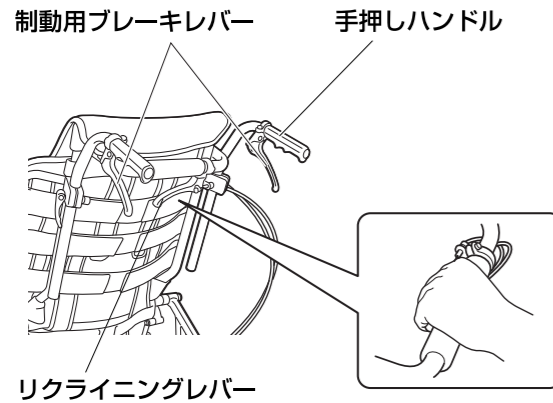
手押しハンドルのクイックリリースレバーが確実にロックされた状態で使用してください。



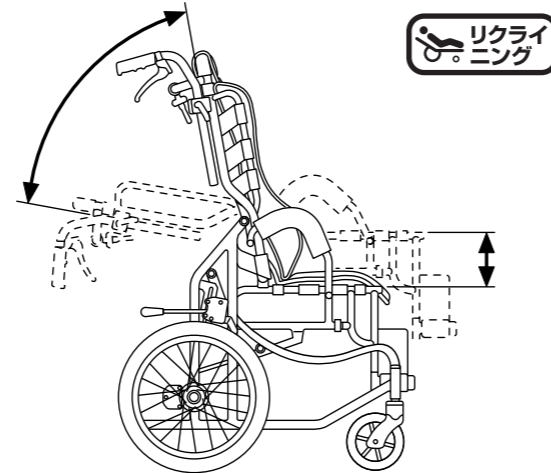
バックサポート（背もたれ）の角度を変える（リクライニング機能）

- △注意** ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
 ・フレームの可動部には指や身体をはさまないように注意してください。

- 1** 片手で手押しハンドルを握り、もう片手でリクライニングレバーを握ります。
 (リクライニングマークが付いたレバーです。)

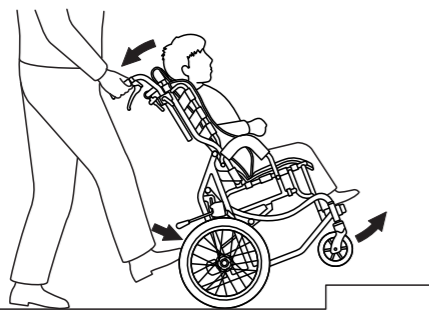


- 2** リクライニングレバーを握ったまま、バックサポートの角度を調整します。
 *バックサポートの角度は、フラット～90度の範囲で調整可能です。
 *バックサポートの角度に応じて、座面の高さも変わります。



- 3** お好みの角度が決まったら、その位置でバックサポートを止めたまま、レバーを放します。
 バックサポートが固定されます。

*レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

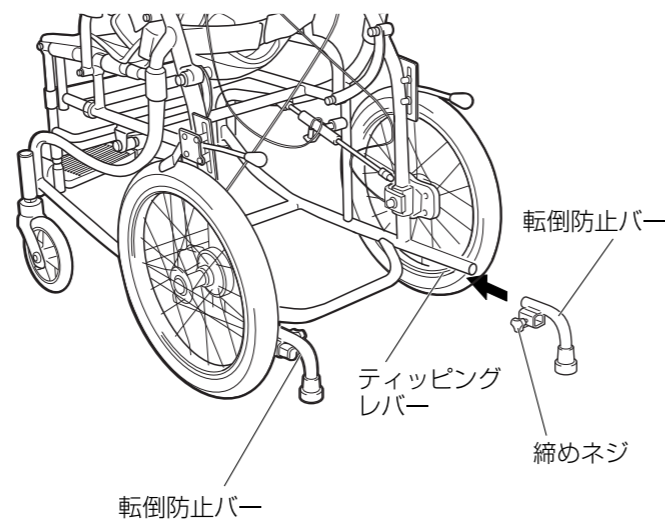


転倒防止バーの取り付け・取り外し

- △注意** 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

取り付けかた
 転倒防止バー(2本)を、図の向きにしてティッピングレバーに差し込み、締めネジを回して固定します。

*転倒防止バーが一時的にじゃまになるときは、取り外すことができます。通常は、転倒防止バーを図のようにセットした状態でご使用ください。



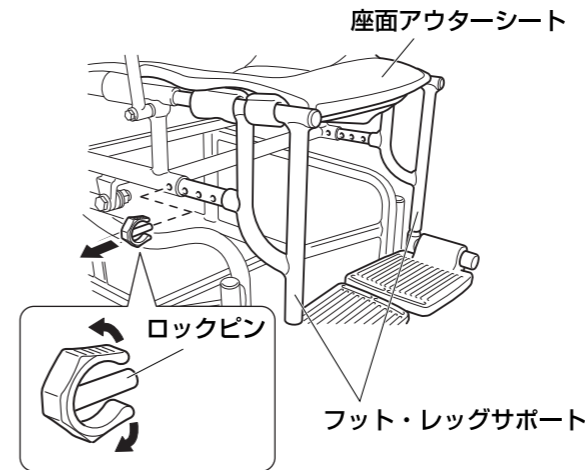
各部の調節のしかた

- △警告** 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。

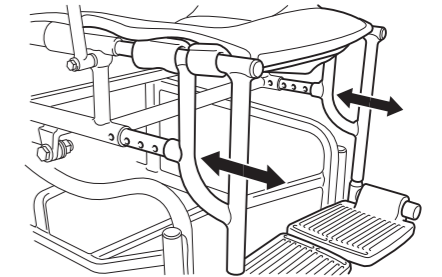
フット・レッグサポートの前後位置調節

使用者に合わせて、フット・レッグサポートの前後位置および座面の奥行きを調節することができます。ロックピンを取り付ける穴を変えることにより、4段階に調節することができます。

- 1** 駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。
2 座面アウターシートとマジックベルトを取り外します。
3 ロックピンを抜き取ります。
 *ロックピン上下の樹脂部分を外側に広げながら抜き取ってください。



- 4** フット・レッグサポートを前後に動かして調節し、適切な位置になるところでロックピンを取り付ける穴を決めます。



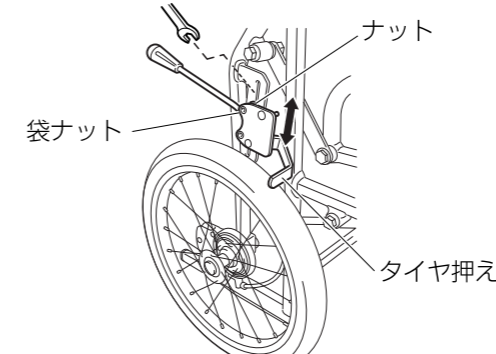
- 5** ロックピンを穴に通し、完全にロックされるまで差し込みます。
6 マジックベルトの貼付け位置を確認してからマジックベルトを貼り付け、最後にアウターシートを取り付けます。
 インナーベルトは、必要に応じて取付け位置を変えてください。

駐車用ブレーキの取付位置調節

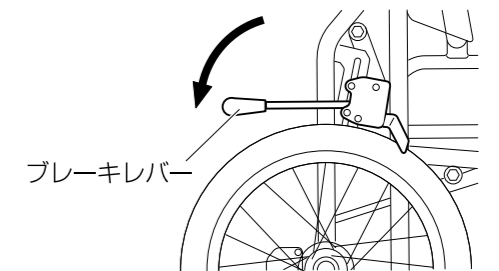
ブレーキの効き具合を随時点検し、効きが悪い場合は、ブレーキの取付位置を調節してください。

*作業しない側の駐車用ブレーキのみかけて調節を行ってください。

- 1** 駐車用ブレーキの袋ナットをゆるめ、次に内側のナットをスパナなどでゆるめます。
2 駐車用ブレーキをかけたときに、タイヤに駐車用ブレーキのタイヤ押えが当たり、主輪がしっかり止まる位置に調節します。



- 3** 内側のナットを締め、袋ナットで固定します。
 *駐車用ブレーキがガタつかずしっかり固定されていることを確認してください。
4 ブレーキレバーを下げて駐車用ブレーキをかけ、主輪がしっかり止まることを確認します。

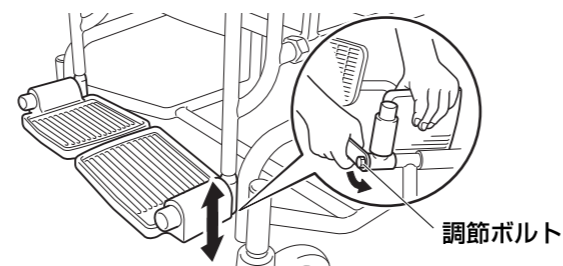


*主輪がしっかり止まらない場合、または駐車用ブレーキが効きすぎる場合は、再度調節してください。
 *反対側も同様に調節してください。

フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。



- * 反対側も同じ高さに調節してください。
- * フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。

フット・レッグサポートの上げ下げ（エレベータ機能）

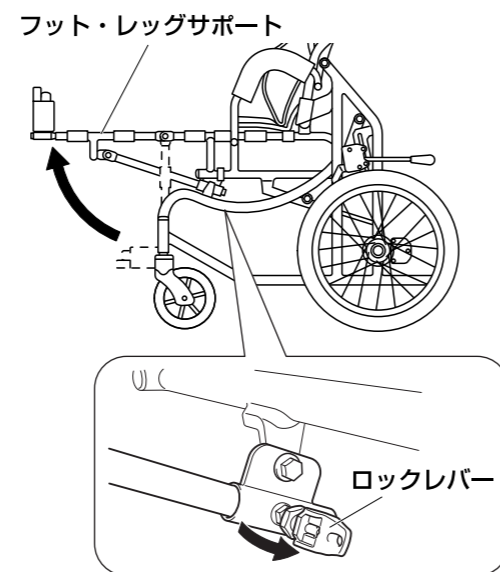
オフ
ジョン

フット・レッグサポートの上げ下げを行うことができます。脚を持ち上げたいときなどに使用します。

- 1 駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 片手でフット・レッグサポートを支えながら、もう片手でロックレバーを引いてロックを解除します。
- 3 フット・レッグサポートを上げます（または下げます。）
- 4 ロックレバーを押し倒して、フット・レッグサポートを位置に合わせてロックします。

* フット・レッグサポートが確実に固定されたことを確認してください。

* ロックレバーの操作は、必ずフット・レッグサポートを支えながら行ってください。フット・レッグサポートを支えずに、上がった状態でロックを解除すると、フット・レッグサポートが急激に下がるため、ケガの原因になることがあります。

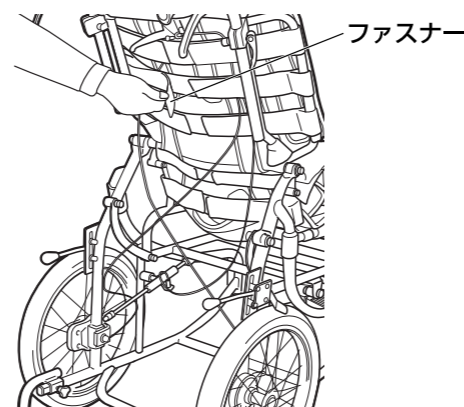


バックサポートと座面の張り具合調節

インナーベルトの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

* アウターシートとマジックベルトの取付位置については、5～6ページの図を参照してください。

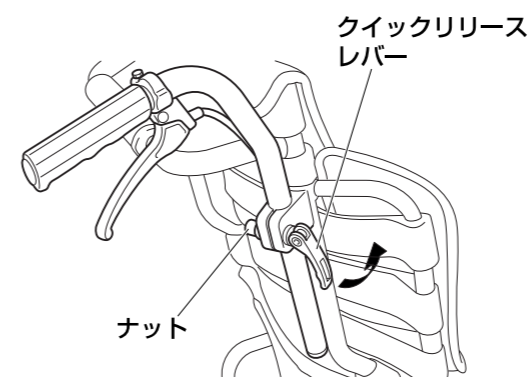
- 1 駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 アウターシートとマジックベルトを取り外します。
- 3 調節する部位のインナーベルトのファスナーをはがして、張り具合を調節した後、もう一度ファスナーをしっかりと貼り合せます。
* 手でインナーベルトを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。
- 4 マジックベルトとアウターシートを取り付けます。



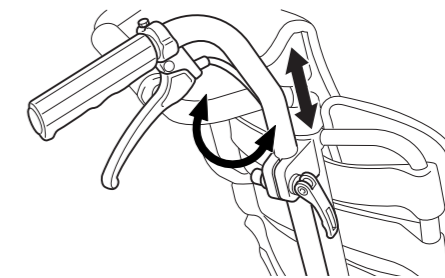
手押しハンドルの高さ/向き調節

介助者に合わせて、手押しハンドルの高さや向きを調整することができます。

- 1 駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 クイックリリースレバーを引き起こしてロックを解除します。



- 3 手押しハンドルの高さや向きを調節します。



- 4 調節を終えたら、クイックリリースレバーを倒してロックさせます。
- 5 反対側の手押しハンドルも、同様に調節します。

- * 調節した後は、必ず手押しハンドルがぐらつかないことを確認してください。
- * クイックリリースレバーの締め付け具合がゆるすぎる、またはきつすぎる場合は、レバーの反対側にあるナットを外し、レバーを引き起こした状態で時計回り、または反時計回りに回して調節してください。
- * 介助者が車いすを押すときは、必ずクイックリリースレバーがロックされていることを確認してから行ってください。事故やけがにつながる恐れがあります。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠ 警告	<p>キャスト、主輪、ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。</p>
------	--

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。（地上より50mm以上あげてください。）

・車いすは熱気、湿気に弱いので、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や水のかかる場所には放置しないでください。